赤人詩篇 赤い手

雨露をしのぐティビ^①を
父母のためにつくった赤い手は
今 鎖につながれている

バイソンに矢を放ち
その肉を仲間とわかち合った赤い手は
今 鎖につながれている

未知の世界の不安に戦^{まの}く愛する乙女の
堅い乳房をしなやかにみほぐした赤い手は
今 鎖につながれている

われらが大地を犯し来る白人どもの

頭皮を何枚も剥ぎとった赤い手は
今 鎖につながれている

恐れ山の精霊よ
われにこの鎖断ち切る
偉大なる神力を与えたまえ

恐れ谷の祖霊よ
いまわしいこの鎖断ち切る
呪力をわれに与えたまえ

われらが祖先の大地に戦い
精霊たちの臥所^{ふしど}を守り
白人どもを海の彼方に追い払うため

注① テント小屋

赤人詩篇　バイソン怨歌

哀しみの大地にバイソンの血は流れた
バイソンの聖なる血は大地を赤く染めた
白人どもはバイソンを射ち殺した
何万頭というバイソンを虐殺した
その肉を主食にして
自然とともに生きるためではなく
金もうけのために
ただ皮を剥ぎ売りとばすために
ときには皮さえもとらず
ただ舌だけを切りとるために
ときには舌さえもとらず
ただ楽しみのために殺し

ただ殺すために殺し
最後の 一頭まで殺しつくした
あとには骨の山が
荒野を白く敷きつめた
かつてバイソンが群なして疾駆し
バイソンと赤人レッドマンが共生していた原野に
今はバイソンの姿なく
白骨がうず高く山積みおまにされ
雨あまさらしにうち捨てられている
文明の侵略と暴虐によって
追いつめられ絶滅された
数え切れない生き物と同じく
バイソンもまた絶滅に追いこまれた
洪積紀の初期にこの地上に出現し
赤人の原始共同体と共生しつつ
ともに栄えきたったバイソンは

もはや地上に甦らないのか

かつてバイソンは赤人の生活を支えていた

その皮はティビーヤモカシンとなり

衣服にもなった

肉は食料となり

乾し肉は保存食となり

肝臓もまたビタミン豊富なごちそうとなった

肩胛骨は鍬くわやシャベルとなり

肋骨は鍬やじりとなり

背骨は子供のオモチャとなった

蹄ひづめはとかされて膠にかわとなり

角はスプーンの材料となった

胃は水がめや水筒となり

腸は焙あぶられてソーセージになった

脳みそは皮なめしに使われ

胆石は粉にひかれて塗料となり

尻尾はムチやハエ叩きになった

糞さえ燃料となり

その灰は肥料となった

バイソン狩りは

赤人の原始共同体をつくり上げ

赤人の共産主義的団結を強化した

だがもはやバイソンはいない

赤人の原始共同体と共生しつつ

ともに栄えきたったバイソンは

もはや地上にはいない

荒野にはただ空しい砂塵さじんが吹くばかり

いま荒野には白人への呪いが満ちている

それは白人に奪われた大地全体へと広がる

それはバイソンの呪いだ

それは赤人の呪いだ

それは来たるべき甦りへの祈りだ

新たな大地の甦りへの意志だ

白人文明帝国を撃ち滅ぼし

バイソンと赤人が共生する

原始共同体を甦らす

戦闘への聖なる啓示だ

ヘチエトウ・アロー^①ノ

ホカ・ヘイ^②ノ

ホカ・ヘイノ

註① 「まことに然り」という意味

註② 突撃の合図

反USA・赤人革命の勝利へ向けての祈り

——七・一九ファイエスタ・デ・ニカラグアへのメッセージ

1

友よ

コロンプスが口火を切った

赤人世界への侵略の開始を^{レッドマン}

西欧帝国主義者の視点に立って

世界史の一ページに輝かしい道標を印した^{しる}

「地理上の大発見」などと

あなたは学校で習わなかっただろうか

友よ

赤人世界を東洋・インドと取りちがえ

赤人原住民を「インディオ」「インディアン」と呼びすてた

侵略者コロンプスたちの誤りを

あなたはそっくりそのまま受け入れてこなかっただろうか

友よ

白人植民者とその子孫のカウボーイたちが

「インディアン」をめったやたらに射ち殺し

USA帝国の侵略・建国を美化した

西部劇と称する活劇に

あなたは拍手喝采してこなかっただろうか

友よ

コロンプスらにはじまる

メヒコを征服したコルテスら

インカを征服したピサロらの物語を

あなたは心の底からの怒りをもって

受けとめてきたと言えるだろうか

友よ

「未開・野蛮」と蔑む^{さげす}周辺世界をのみつくし

原住民を虐殺・掃滅していった

「資本の文明化作用」

「資本主義の勝利」なるものを

「歴史の必然」

「社会主義の前提条件」として肯定する

マルクス・エンゲルスの『共産党宣言』なるものを

あなたは疑ってかかったことがあるだろうか

2

友よ

あまたの白人侵略者を迎え撃ち

あまたの白人侵略者を撃退した

一つの共同体として一丸となって戦い抜いた

赤人原住民の叙事詩が

スペイン植民帝国の屋台骨をゆるがした

ツバック・アマールラケチュア族の戦いの歌が

ニカラグアのモスキート族の戦いの歌が

チリ・アルゼンチンのマプーチエ族の戦いの歌が
ウルグアイのチャールス族の戦いの歌が
USA帝反革命軍をしばしば撃破した
オセオーララセミノール族の戦いの歌が
クレイジー・ホースラサー・シャイアン族の戦いの歌が
あなたの心にはきこえてはこないだろうか
黄金にとりつかれて人たるの心を失い
「未開・野蛮」と蔑視する原住民を
虐殺・征服・支配・教化することこそ
文明人が神からさずけられた
「明白なる運命」^{さだめ}であると呼する
西欧帝国の白人とその子孫の武力によって
大地を奪われ
共同体を破壊され
種族そのものをも
丸ごと根こそぎ抹殺された

赤人大陸原住民の呪いと怨みの声が
あなたの心にはきこえてはこないだろうか

3

マルクス・エンゲルス・レーニン・トロツキーらは考えていた
世界革命は西欧でこそはじまって
西欧でこそ勝利すると
だがこの西欧中心主義に毒されたドグマは
ものみごとに破産した
真実は彼らを裏切った
世界革命の源動力
世界革命の主力は
西欧プロレタリアートではなく
世界帝国主義の周辺部に位置づけられた
被植民地人民・原住民共同体なのだ

4

友よ

「第二第三のベトナムをノ」と檄をとばして
赤人原住民との結合めざし

大陸革命の策源地を築くため

ボリビア山中に潜入して

ゲリラ戦を開始し

一九六七年一〇月八日

志なかばにして戦死したゲバラの遺志を

あなたは受けとめようとはしないか

5

友よ

一九七九年七月一九日に勝利を印した

ニカラグア革命の渦中に登場した

モンボのナウア族をはじめとした

原住民・赤人共同体の武装闘争のことを

あなたは知っているだろうか

それはメスティーソ主体の革命闘争の限界をこえる

原住民・赤人共同体よみがえりへの
崩芽だ

それは人類の本源的共同体よみがえりへの
序曲だ

それは原住民・赤人共同体を主体とした

反USA・赤人革命への

台図だ

6

友よ

世界帝国主義の最深部からわきあがる

よみがえる大地の讃歌が

人類の本源的共同体がよみがえる

世界革命の叙事詩が

赤人共同体の命よみがえる

原住民の祭の歌声が

そして世界帝国主義の打倒へ向けた

戦闘へのメッセージが

あなたの心にはひびいてこないだろうか

7

友よ

いまあなた自身の生きざま戦いさまが

ためされ問われフルイにかけられているのだ

ブラジル・アマゾンをはじめとした

赤人共同体の破壊に加担し

搾取・収奪をほしのままにしている

日帝企業群の侵略を許容している

日帝本国人たるほくらの

そしてあなたの

在りようそのものが問われているのだ

8

友よ

この日帝本国においてもすでに

戦いは始まっている

心貧しい文明人たるほくらが

心豊かな自然人へと生まれかわる

反USA・赤人革命の勝利を祈る

根源的連帯・合流への戦いは

すでに開始されているのだ

一九七五年七月二三日

同志木田明夫は

チリ・ファシスト政権の練習艦

エスメラルダ号を攻撃し

ピノチェットと戦う赤人原住民マプーチェ族への

連帯の合図を送った

一九七七年六月三〇日

地下の同志たち

世界革命反日戦線・タスマニア一八七六は

アマゾン侵略を担っている

三井アルミ社長宅への
爆破攻撃を貫徹し
イギリス人に滅ぼされた
タスマニア島原住民の魂を復権し
アマゾン赤人原住民の戦いへの
連帯の合図を送った
一九七九年三月一九日
地下の同志たち
反日武装戦線は
エルサルバドルのFARRNによって担われた
日本人重役捕捉作戦に呼応し
東レ海外事業担当重役宅への
爆破攻撃を貫徹し
エルサルバドル人民・赤人原住民の戦いへの
連帯の合図を送った

9

友よ
されば心おきなく祝おう
ニカラグア人民戦争勝利一周年を
友よ
しからは憎悪に燃えて呪い殺そう
訪日する反革命頭目ビノチェットを
友よ
しかして愛をこめて祈ろう
反USA・赤人革命の勝利に向けて

隼人の呪い

大和の都の夜はふけて
今夜も隼人の速吠えが
夜の都に響き渡る
宮仕えする隼人の速吠えには
だが深い愁いが立ちこめている
愁いに満ちた速吠えに
夜の魔物はおじけない
愁いに満ちた速吠えに
魔物を追い祓う呪力はない
愁いに満ちた速吠えは
空ろな死んだ速吠えだ
宮仕えする隼人よ

おまえにはもはや
かつては荒ぶる神々をも畏怖せしめた
あのいきいきとした呪力はない
おまえは隼人族の血を裏切って
命乞いのために大和に仕える
裏切りものの偽隼人
宮仕えする隼人よ
なぜおまえは
同族を売ってまで
生きのびようとするのか
偽隼人のおまえの穢れた血を
子子孫孫につたえることに
いかなる意味があるというのだ
たとえおまえの速吠えに
魔物を退治する呪力がなからうと
おまえの速吠えを聞くだけで

大和の貴族は安らかに眠るだろう
異族征服への活力を養うだろう
宮仕えする隼人よ

おまえはあの荒野に疾駆する
神々しくも誇り高い

隼人族の誇りを
忘れてしまったのだろうか

おまえはあの戦場に大和族を撃破する
神々しくも勇壮な

隼人族の覇気を
忘れてしまったのだろうか

おまえはあの山河に狩猟する
神々しくもおおらかな

隼人族の自由を
忘れてしまったのだろうか

隼人族の神聖なる血の

一滴も残っていないのだろうか

悲しいではないか

大和族にへいつくばって生きる

隼人の脱殻ぬけがらを見るのは

くやしいではないか

脱殻の隼人よ

隼人族の神聖なる血の一滴をもって
生きかえれ

宮仕えするオノレの醜さを鏡に映し
オノレ自身の手でもって

オノレの醜い姿を打ち砕け
その時おまえの呪力はよみがえる

そして呪い殺せ
大和族のスメラミコトを

呪って呪って呪い殺せ
われらが隼人族を撃ち滅ぼした

スメラミコトをぶち殺せ